

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事	令和元年7月19日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府長岡京市東神足2-1-1	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 三菱ロジスネクスト株式会社 取締役社長 御子神 隆

環境マネジメントシステムの名称	ISO14001:2015/JIS Q 14001:2015
適用範囲	三菱ロジスネクスト株式会社 本社・京都工場、滋賀工場、安土工場、ニチュマシナリー 新川崎事業所、東日本統括部、オンサイト研修センター ユニキャリアハンドリングシステムズ
導入年月日	2005年9月16日
認証番号	JQA-EM4909
基本方針	添付のとおり（環境マネジメントマニュアル抜粋）
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	2018年度から2020年度の3か年目標（環境目的）を次のとおり定めた。 <ul style="list-style-type: none"> 環境活動を事業活動のひとつとして位置づける 環境法令順守 製品使用によるCO2の削減貢献量の算出方法や基準を定める グリーン調達を推進 2020年度の廃棄物排出量原単位を、2017年度比で3%改善 2020年度の国内のVOC排出量原単位を、2017年度比で3%改善 環境啓発活動を積極的に行う 2020年度のCO2排出量原単位を2017年度比で3%改善 2020年度の水使用量原単位を2017年度比で3%改善 製品/部品輸送に伴う省エネ、省資源について原単位で前年度より改善
目標を達成するための取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> 経営統合にともなうISO2015年版の拡大認証 グループ会社への環境活動拡大のための体制構築 開発車の製品使用時のCO2排出量を前モデルより改善 ELV規制物質の使用低減推進、REACH規制対応と取引先支援の強化 環境パトロール実施による分別徹底や環境意識向上 VOC排出量の適切な把握 地域貢献活動への参加 設備投資や工数低減活動実施 設備改修と節水啓発 梱包方法見直し、梱包材再利用、通い箱化推進
目標を達成するための取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 新規格に対応した内部監査やマネジメントレビュー等の実施 定期的な環境関連データ収集 2017年度開発車実績値算出と算出基準の明確化 六価クロム部品の削減対応、SVHC調査実施率向上、「禁止物質の不使用・非含有宣言書」提出率向上 VOC排出量の把握方法の改善 ごみゼロ運動実施 予定した環境負荷低減に寄与する設備投資 配管設備点検 簡易梱包、モデルチェンジ車に関わる部品の通い箱化
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	2018年度までの成果、評価等については、次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 経営統合により拡大すべきISO認証範囲を計画的に拡大 グループ会社の環境関連データ収集の仕組み構築 リーチ式バッテリー車、ディーゼルエンジン車で新旧比較を試行 コアサプライヤ選定を進める中で、コストアップとの関係性を考慮しながら、六価クロム部品削減を進める VOC排出量の月次データを適切に把握 予定した設備投資完了 原単位あたりの梱包材使用量の削減
事業活動に係る法令の遵守の状況	環境関連法規制登録簿を作成し、毎年、順法性評価を行うとともに、適宜、法規制登録簿の見直しを実施している。 行政当局からの違反の指摘はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価及び見直しについては、年1回、3月にマネジメントレビューを実施している。 前年度において、現行の目標及び取組内容により一定の成果が見られたことから、今年度も同一のシステムにより運用することとした。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。